

令和元年 11月 27日（水） 19:00～21:00

場所：ウイステリアホール

## 議 事 録

協議会委員 中鹿 直樹 委員（立命館大学准教授）、中鹿 彰 委員（追手門学院大学教授）  
野村 明仁 委員（茨木市立西中学校長）、片岡 誠 委員（本校後援会会長）  
大西 哲 委員（保護者・本校振興会）、長田 佳久 委員（本校後援会副会長）  
事務局 下本 隆二（准校長）、島田 一（教頭）、竹内 秀行（首席）、浅原 幸三（主査）  
江菅 純一（教務）、中村 充希（生徒）、村上 拓哉（修学） 以上、教員

- 第 1 部
1. 准校長より学校教育計画の進捗状況と学校の様子について
  2. 各分掌より学校の様子について
    - ・生徒部…生徒指導、交通安全指導、SNS 研修
    - ・教務部…出席状況、中退について
    - ・修学部…進路希望、進路決定状況について
  3. 協議テーマについて  
協議テーマ①「広報について」  
公立高校進学フェア、外部説明会、本校での説明会、その他（ポスター、ちらし）  
協議テーマ②「学校行事及び部活動等の取り組み」について  
学校行事（体育祭、文化祭、校外学習、修学旅行等）、部活動、  
その他（秋季発表大会、リーダーズキャンプ）
  4. 教科書について

## 第 2 部 協議

### <質問事項>

- ・退学する生徒のうち不登校の生徒の割合は。  
⇒不登校からの退学は数名います。成人生徒で仕事や子育てでの退学、音信不通での退学など理由は様々です。
- ・休む生徒への対応はどうしているのか。  
⇒欠席するとすぐに担任が生徒・保護者に連絡を入れ、不登校を未然に防いでいます。今年度はゲームで昼夜逆転している生徒が数名います。
- ・カフェに参加している生徒の中退はどうか。  
⇒追跡調査はしていませんが、参加している生徒は中退につながっていません。
- ・文化祭の劇の質が高く感心した。もっと自慢してもよいのではと感じた。生徒の成長が感じることができた。

⇒文化祭の来場者数は108名だった。もっと情報発信が必要と感じています。

- ・修学旅行で民泊をしているが、民泊の経験は大事であるが、リスクがある。

⇒本校は人数が30名程で7～8か所にしか分かれられないので全て巡回を行っています。緊急連絡用の携帯電話も生徒には知らせており対応しています。リスクがあるという観点は持っていなかったの  
で注意をしていきたいと思います。

- ・個別の指導計画の作成の有無は。

⇒中学校から引き継ぐ分に加え、入学時に行う保護者や本人のアンケート、担任・SSWの面談を通して、各学年必要に応じて作成しています。

- ・個別の指導計画作成の生徒の中退者はいるのか。

⇒いません。

#### <第1回の提言に対する進捗状況>

- ・他校の学校経営計画について

共通する部分も多いが、学校によって特色が出ている項目もあります。

- ・授業について

生徒自らが考える力を養いたい。今年度は、国語・英語・情報の授業で、グループ学習や発表を取り入れた授業を行っています。

- ・保護者への参加促し、地域との連携、広報活動について

保護者へは体育祭・文化祭の案内を配付、近隣へは文化祭の案内のポスティングを行いました。文化祭当日は、正門に誰でも入場可と表示を行い数名来場がありました。准校長通信の内容を学校の様子をできるだけ伝えるようにしています。他校で生徒募集の横断幕があり、本校でも導入を考えたい。生徒秋季発表大会の案内も事前に中学校等への周知をしていきたいと考えています。

- ・人権や障がい者に関する研修について

昨日(11月26日)、手話落語の講演会を実施しました。聴覚・視覚障がいのある方、高齢の方や困っている方に声をかけることが大切だと生徒が感じられたらよいと思っています。

#### <提言>

- ・HPを見るのはハードルが高いので、SNS(ツイッターなど)との連携を図るのはどうか。保護者も見やすいのではないか。
- ・文化祭で作成をした30秒CMを保護者に見てもらい関心を持ってもらうのはどうか。また、Youtubeは難しくても授業見学会や学校説明会など色々な場面で見せるのはどうか。
- ・不登校であった生徒が、春日丘高校の定時制で登校できるようになっている生徒が多数いることは大きな特徴である。不登校で困った生徒は春日丘で卒業できるということをもっとPRできたらよい。
- ・SNS、防災、交通安全の啓発は地域としても重要であり、継続して指導して欲しい。
- ・説明会をたくさん行っているが、効果をどう図るのか。どのように春日丘定時制を知ったのかを入学時にアンケートを行い、その結果で取捨選択をすればどうか。
- ・個別の説明会について周知方法を考えてはどうか。
- ・高校でも個別の支援計画を作成していることについても積極的にアピールすればどうか。